

# 「少年非行」ゼロの社会へ

山口県宇部フロンティア大学附属中学校 1年 <sup>えとう</sup>江藤 <sup>あさ</sup>青咲



みなさんは、「少年非行」と聞いて何を思い浮かべますか。私は「少年非行」と聞いて、万引き・きつ煙・いじめ・暴力の4つのことを思い浮かべました。しかし、私は「少年非行」についての確かな知識を持っていなかったため、インターネットを使って調べてみました。すると、「少年非行」とは、青少年によって行われた刑罰法令に触れるおそれのある行為のことだと分かりました。具体的には、万引き・詐欺・暴行・傷害・器物損壊などです。つまり、「少年非行」とは、人を傷つけたり、悲しませたり、迷惑をかけたりする行為のすべてだと分かりました。

では、なぜ「少年非行」は起こるのでしょうか。また、どんな心理が関わっているのでしょうか。私は、「少年非行」は、自分の居場所がどこにもないと思っている人や、信用できる大人や友達が周りにいない人や、つらいことがあっていららしている人が起こすのではないかと思いました。このとき、自分の存在に気付いてほしい、自分を認めてほしいという心理が働いているのではないかと思います。しかし、インターネット上の調査によると、非行少年達は劣等感を持ち、情緒が不安定で自己統制ができず、外向的で活動的な特性を持っている人が多いそうです。さらに、自己中心的で他罰的な傾向があり、協調性や客観性に乏しく、攻撃性や衝動性が高いという特徴が当てはまる人が多いそうです。また、認められない、評価されないといった心理が関わっているようです。

では、どのようにしたら非行を防ぐことができるのでしょうか。私は、母と非行防止対策について話してみました。すると母は、「何か困ったことがあった時に、相談できる親子の関係を築けたらいいね。親子が無理でも、学校の先生や大人が、子どもの変化に気付いてあげられたらいいね。」と話してくれました。私は、子ども側からの立場として、気軽に相談できる親や大人がいてくれたらいいなと思います。ほかに、自分の気持ちや悩みを素直に打ち明けることのできる友達がいたらいいです。

私は今、困っていることや悩みがあるとき、親や学校の先生に相談しています。例えその場で問題が解決できなくても、聞いてもらえるだけで落ち着いたり、安心したり、気持ちが楽になったりするので、「私には居場所があるのだな。」と思うことができます。非行の道に進んでしまった人たちは、その人たちだけの責任ではなく、相談できる関係を築けなかった周りの環境にも責任があると思います。一度非行行為をしてしまうと、一生罪をつぐなうことになる

こともあります。少年非行の再犯率は2021年に発表されたものでは、34.7パーセントでした。一度犯罪を起こすと、再犯率が高いことに驚きました。再犯率が高いということは、大人になってからも社会の中で自立して生きていくことが難しくなることにつながると思います。

今の時代は、軽い気持ちでSNSに投稿した動画や写真がすぐに拡散され、個人が特定されます。一回の過ちで、本人の将来だけではなく、家族や友人にも大きな迷惑がかかってしまいます。SNS上に残ってしまった顔や名前などの個人情報は一生涯消えず、将来の就職や人間関係にも悪い影響が出る可能性があります。過ちを犯すのと犯さないのでは、全く違う人生を歩むことになります。

私は自分も過ちを犯したくないし、友達にも過ちを犯してほしくはありません。私は困っていることや悩みがあれば、親や学校の先生、友達に相談したいと思います。また、友達の様子がいつもと違うと気付いた時には声をかけたり、相談を受けた時には真剣に話を聞いてあげたいです。それが、中学生である私の責任だと思います。大人の人たちには、子どもの変化に気付いて、話を聞いてあげたり、居場所を作ってあげられるように関わってほしいです。社会に対しては、一度過ちを犯した人でも、罪をつぐなった後は社会の中で自立できるようなサポートができたらいいいと思います。そして、一番大切なことは、一人一人が「少年犯罪」の現状や将来への影響について正しい知識を持ち、「少年犯罪」の道に進まないように、強い意志を持つことだと思います。また、自分の友達が「少年犯罪」の道に進みそうになったら注意し、引き留めることのできる強さも必要だと思います。一人一人の行動が大人から社会まで広がり、「少年犯罪」がなくなる日が来たらいいなと思います。